

平成 20 年 3 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
(JASDAQ・コード番号：2776)
代表者名 代表取締役社長 茂木眞一
問合せ先 取締役 CFO 古木智一
電 話 03-5637-0505

特別損失の発生と平成 20 年 1 月期業績予想（連結・個別）の修正のお知らせ

当社は平成 20 年 1 月期（平成 19 年 2 月 1 日～平成 20 年 1 月 31 日）において特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに平成 19 年 12 月 14 日付「平成 20 年 1 月期第 3 四半期財務・業績の概況」にて公表した連結業績予想及び平成 19 年 11 月 29 日付「平成 20 年 1 月期中間決算短信」にて公表した個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生について

(1) 連結決算

当社グループは平成 20 年 1 月期中間期に連結業績で、パイオニアトレーディング株式会社の将来収益獲得力等を保守的に勘案した結果、のれんの未償却残高 414 百万円の減損損失、その他 144 百万円の合計 558 百万円を特別損失に計上しました。

再度期末に店舗毎の損益を精査したところさらに不採算 6 店舗が減損の対象店舗となることを受け、来期以降収益見込みを考慮し当該店舗の閉鎖を決定したため減損損失 53 百万円を計上しました。さらに旧日本橋営業所、大阪営業所および 4 店舗の固定資産除却 37 百万円、また取引先の破綻により貸倒引当金繰入 14 百万円が増加し、合計 104 百万円を特別損失として追加で計上しました。

当該期における連結の特別損失は合計 662 百万円となります。

(2) 個別決算

上記 (1) 同様、平成 20 年 1 月期中間期に個別業績で、同子会社にかかる投資損失引当金 844 百万円、同子会社への貸付金を貸倒引当金繰入として 125 百万円、その他 87 百万円、合計 1,057 百万円を特別損失に計上しました。

平成 19 年 11 月 29 日以降に、当該中間期に計上していた投資損失引当金繰入 844 百万円を関係会社株式評価損に評価換えし 1,035 百万円を計上しました。その評価替え差額は 191 百万円ですが、当該子会社の純資産の減少に対応したものです。さらに当該中間期に計上していた貸倒引当金繰入 125 百万円に対して借入金の増加に伴いさらに 125 百万円（貸倒引当金繰入合計 250 百万円）を追加したものです。また個別での不採算 5 店舗の減損損失 48 百万円、その他旧日本橋営業所、大阪営業所および 3 店舗の固定資産除却 32 百万円、取引先の破綻により貸倒引当金繰入等により 14 百万円、合計 410 百万円を特別損失として追加で計上しました。

当該期における個別の特別損失は合計 1,467 百万円となります。

2. 業績予想の修正

(1) 連結業績予想 平成20年1月期（平成19年2月1日～平成20年1月31日）

通期		(単位：百万円、%)			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
前回発表予想 (A)	13,000	△890	△880	△1,450	
今回修正予想 (B)	12,915	△1,193	△1,177	△1,822	
増減額 (B-A)	△85	△303	△297	△372	
増減率	△0.6	—	—	—	
(ご参考) 前年実績 (平成19年1月期) 平成19年11月22日公表分	15,673	△1,115	△1,139	△1,227	

(2) 個別業績予想 平成20年1月期（平成19年2月1日～平成20年1月31日）

通期		(単位：百万円、%)			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
前回発表予想 (A)	11,500	△500	△485	△1,550	
今回修正予想 (B)	11,395	△764	△724	△2,178	
増減額 (B-A)	△105	△264	△239	△628	
増減率	△0.9	—	—	—	
(ご参考) 前年実績 (平成19年1月期) 平成19年11月22日公表分	14,557	△1,090	△1,075	△1,105	

3. 業績予想修正の理由

(1) 連結業績予想について

売上高は、前回発表より概ね予想通り推移しました。しかしながら今回期末に一部取引先の取引条件変更に伴い本来引き取り予定のない商品を販売時点より先に引き取りをせざるを得なくなりました。この商品引取りの前倒しのため当該期末における当該商品評価損の計上により売上総利益額は見込みを下回りました。前回発表より販売費および一般管理費についてはほぼ見込みどおり推移したものの、当事業年度通期に係る連結業績については、営業損失、経常損失及び当期純損失は、前回発表した修正予想を下回ることとなりました。その結果連結業績予想の通期売上高は12,915百万円、営業損失1,193百万円、経常損失1,177百万円、当期純損失1,822百万円となりました。尚、当期純損失については1. 特別損失の発生についてを参照ください。

(2) 個別業績予想について

個別業績予想の修正理由は、連結業績予想の修正理由の中でご説明させていただきました内容と同一の理由によるものです。

その結果個別業績予想の通期売上高は11,395百万円、営業損失764百万円、経常損失724百万円、当期純損失2,178百万円となりました。尚、当期純損失については1. 特別損失の発生についてを参照ください。

【 参考 】

各事業部門別（連結）の売上高の予想 （百万円未満切捨）

	前回予想 (平成 19 年 12 月 14 日)	今回修正 (平成 20 年 3 月 25 日)	乖離率
卸 売 事 業	7,500 百万円	7,319 百万円	△2.4 %
小 売 事 業	4,700 百万円	4,719 百万円	0.4 %
ライセンス事業	800 百万円	875 百万円	9.3 %
合 計	13,000 百万円	12,915 百万円	△0.6 %

4. 今後の対策について

現在、当社は業績回復のための体制・組織の見直しに着手しております。

平成 19 年 9 月に発覚した過年度における不適切な会計処理に関して、本件を未然に防止できなかったコーポレートガバナンス体制に根本的な問題があったとの認識を持ち、ステークホルダーに対する説明責任を全うするための社内改革を断行してまいります。また当社は平成 20 年 2 月 8 日付でジャスダック証券取引所に対し「改善報告書」を提出し今後の改善の指針について開示しております。

ステークホルダーの皆様からの信頼回復を最優先事項として取り組み、業績の回復に向けて社内組織の変更等を行なってまいります。

以 上